

令和5年度栃木県立馬頭高等学校 第3回学校運営協議会（司会：教頭 議事録：田中）

I 日 時 令和5年12月15日（金） 14：30～16：10

II 場 所 馬頭高校会議室

III 参加者 委員10名出席（欠席3名）

県教委 欠席

馬頭高校職員7名出席

那珂川町職3名傍聴

報道関係者なし 以上 総数20名

【議事録】

1 開会 教頭

2 若園会長あいさつ

現在行われている大学入試では地域が問われている。入試だからという理由ではなく、高校生が持つべき資質として必要であると判断されている。

3 小島校長あいさつ

現在生徒会役員が校庭で作業しているが、明日行われる強歩大会の準備をしている。昨今の道路事情の中で、学校外での強歩大会が実施できない事態となった。本来とは違う形でも、行事自体は開催したいということで、体育祭のような大会に変えて工夫して開催することとなった。グラウンドの状況が不安定で、外での実施が難しいこともあるので、体育館になると困難であることで保護者の観覧を断念して実施することとさせていただいた。

修学旅行は無事帰ってきたが、終わって2年生がインフルエンザにかかってしまい、学年閉鎖となってしまった。古館祭も数年ぶりに規制なしで実施できた。水産科の海洋実習も4年ぶりに開催できた。ナカスイの続編が発売されたが、そのテーマが海洋高校との交流であった。町議会との意見交換も生徒会の生徒を中心に議場で実施できた。生徒は堂々としており、成長を感じることができた。3年生の進路については第4回で詳しく報告されると思うが、就職進学共におおむね順調に決まっている。役場にも1名合格し、大変お世話になった。大学も岩手大学に合格が決まった生徒がいた。国立大学として25年ぶりであった。今日発表を予定している生徒も水産系の4年制大学に進学が決まっている。

高校再編、あるいは生徒の募集に関しては、まだ定員が見込みである。今後中学生の希望調査2回目が出てくるところだが、第1回ではありがたい希望数をいただいたが、今後も気を締めて取り組んでいく。

4 生徒体験発表

【担当教頭】 水産科3年大山くんは全国水産高校意見体験発表会最優秀賞、水産庁長官賞をいただいている。彼は、神奈川県出身で町営住宅のサンコーボラスで3年間お世話になった。

[3年大山発表]

[質疑応答]

【益子委員】 結果として、問題は解決できたのでしょうか？

【3年大山】 直接的に保護することはなかったが、啓発の仕方やどう守ればよいかを深く考えることができたことは良かった。

【若園会長】 プレゼンテーションとしても完成されていた。大学に進学するまた新しい人間関係の中で広がりが生じると思うので、さらに深めてほしい。

5 議事

【若園議長】 今日是非常に議題が多いということで、学校からの報告に中心にしたい。協議が必要な時は取りあげていただきたい。

(1) 通級の指導について

〔報告〕

【担当教頭】

現在、ブレ通級が開始されている。ブレ通級開始までの流れを資料に示している。希望生徒が1名増えて、計3名になった。支援内容は個々にあったかたちで実施している。一人は自分の気持ちを言葉に表現するトレーニング、一人は感情のコントロールをするトレーニングを行っている。今後は個別の支援計画を作成して対応している。他の生徒と同じように授業を勧められる体制を作っていく。

〔質疑応答〕

益子明委員：馬頭高校に通級の指導を実施するにあたって県議会に要望を出した「一歩一歩の会」という組織があるが、県教委から回答があり、通級と再編は別として考えていただきたいと説明を受けている。来年度も通級の指定校となるとのことでぜひよろしくお願いしたい。中学校側から高校に個別の支援計画が渡されていると思うが、その引継ぎを適切に行っていただきたい。

【担当教頭】

個別の支援計画の引継ぎを希望しない保護者生徒もいると聞いている。本校ではそういった生徒も含め、中学校と連携して必要な対応を行っている。

【五月女委員】

中学校から通級指導があることを情報を保護者生徒に伝えてよいのか。

【小島校長】

全県下の高校で通級指導は行うことができるので、どの高校に進学しても通級による指導は受けられると明示されている。

(2) 馬頭高校サポートルームについて

〔報告〕

【担当小高】

馬頭高校サポートルームについては、資料の通りで進行している。詳しい内容については企画財政課長に願います。

【深澤委員】

担当部署は企画財政課である。この取り組みの担当者、地域おこし協力隊の石川より説明する。

【石川隊員】

- 1) 目的について…地域での活動を通して、生徒の自主的な学びを引き出すものとした。
- 2) 名称について…目的に準拠し、「サポート」よりも「地域の活動」に重点を置く名称を改めて考えて後日報告する。
- 3) 活動内容について…自主学習とプロジェクト型の学習のふたつの柱があるが、プロジェクト型をメインとしたい。具体的内容については資料の通り。プロジェクト型の取り組みは事前に申し込みを受けた生徒を対象に実施する予定である。担当者は石川隊員が対応し、内容に応じて関係各位が協力して実施していく。場所は今回設置されたコミュニティスペース「HITOTEMA」。

[質疑応答]

【若園議長】コミュニティスペースの準備についてはどのように行うのか。

【石川隊員】来年度から開始できるように整備を進める。高校生に協力を要請するかについては現状では決まっていない。これから検討していきたい。

【塩澤委員】人数はどのくらいを想定しているか。

【石川隊員】前回から引き続き、10-20人程度を想定している。

【塩澤委員】予算はどうするか。

【石川隊員】この事業として割り当てられている予算があるので、それに対応する。

【益子和委員】保護者目線の意見からすると、生徒が放課後保護者等の迎え待ちなどで待機できる場所として機能していただくとありがたいがその点はどうか。

【石川隊員】学校と連携し、臨機応変に対応したい。逆にそのような要望の声をいただくと助かる。

【若園議長】生徒の需要に応じて開設時間を拡大するなど対応していただくとよいのではないか。別の質問だが、現時点で決まっている、具体的に企画されている活動はあるか。

【石川隊員】現状、計画の段階である。

【若園議長】もし具体的な活動が決まれば、次回の委員会でその内容について協議してもいいのではないか。また、学校側の担当者は地或連携教員ということになるのか。

【担当小高】地或連携の小高、高橋と、事前の打ち合わせには主幹教諭も参加した。

【若園議長】学校側に窓口があるというのは安心だ。うまく連携して計画を進めていければよい。

【小島校長】関係の方々に感謝申し上げます。ただ、学校外のことですので、活動に際してはご配慮をいただければ幸いです。

【若園議長】学校側でここまではOK、ここからはよくないという境界について連携を深めて進めていただければ。

(3) 那珂川学について

[報告]

【担当小高】コロナ禍の影響が少なくなり、徐々に那珂川学の活動が通常通りになってきた。本年度は1年生、2年生それぞれで資料の通り実施することができた。古館祭の場でも成果を公開することができた。また、活動が見えにくいという声に応えて、これまでの活動をまとめた。町の多大な支援の下、多様な活動を行ってきたが、ここ最近は町の方の高齢化や活動のマナー化などで閉塞気味なところがある。更なるアイデア等があれば助かるので情報提供願いたい。

[質疑応答]

【益子和委員】まほろば太鼓が伝統芸能としてあるが、最近は担い手不足で消失しかかっている。

【担当小高】伝統芸能を体験した若者は地元に着しやすいくということもあり、今後検討してみたい。

【若園議長】資料にある過去の活動は時系列的に並んでいるのか。

【担当小高】原則時系列で並んでいる。しかし、何度も実施しているものもある。また、学校規模の変化に応じて、那珂川学も内容を見直していくこととなる。

【若園議長】例えば伝統芸能について20人の生徒が触れたときに、1人でも担い手となってくれ

ればそれは価値のあることとなる。触れないことには生まれない。担い手が不足して
いてニーズのあるところに着目するのもよいことではないか。そのあたりを前向きに
検討していただければ。

(4) 中学校訪問について

〔報告〕

【担当馬籠】資料の通り、中学校訪問した。通学手段の点かやはり気がかりであるとの反応が目立
った。

〔質疑応答〕

【若園議長】その他についてはどのようなことが挙げられていたか。

【担当馬籠】本校の教育相談的機能については多くの学校で評価されていると感じた。また、第 1
回の発表を受けて、志望変更の増減はあまりないようであった。

【若園議長】今少子化の中で、こういう熱心な対応は重要でないか。宇都宮大学でも北海道にまで
勧誘に行っている現状である。

【吉成委員】2つ確認したいことがある。一つは入試制度が変革していく上で、どのように馬頭高
校をアピールしていくか。その具体的な方法について教えてほしい。ナカスイ2にも
茨城海洋高校との交流が取り上げられているが、茨城県の中学校も勧誘されるとよい
のではないか。

【担当田中】美和中からは過去に何人も来ていた。現在も通っている生徒がいる。

【小島校長】通学手段の問題がある。

【益子和委員】逆に中学校側が高校を見ることはないのか。

【小島校長】先日馬頭中学校生が本校に授業見学に来た。

【益子和委員】高年齢の方々は昔の馬頭高校のイメージがどうしても頭から離れない。今の学校の
様子を見せることは重要ではないか。

【若園議長】時代的にそんなことはなくなってきたが、やはり保護者のイメージは大事。そのあた
りを意識した PR 活動をされるとよいのではないか。

(5) スクールポリシーについて

〔報告〕

【担当馬籠】本校として、資料の内容で県に提出し、回答を待っている段階である。

〔質疑応答〕

【若園議長】確定の期日は6月か。

【担当馬籠】県教委が案を検討し、回答が届き、やり取りを経て確定するのが6月の予定である。

【若園議長】では、このような意見が出たとして、反映可能なのはいつまでなのか。

【小島校長】原則として、何かあったときの微調整となる。

【若園議長】微調整ならば可能ということで、例えば不明な点とかあれば。

【益子委員】今回の提案についての改善案ではないが、もし加味できることがあるのであれば、来
年度、定員が減少した際に、少ないからこそ生み出せる魅力を付け加えていただけれ
ばと思う。

(6) 生徒の活動報告

〔報告〕

【担当教頭】主な生徒の活動を写真でまとめた。「広報なかかわ」についても掲載した。特にホース

ヘッズ村との交流事業に生徒が参加させていただいた内容に触れている。

[質疑応答]

【吉成委員】 海外研修の機会はよかった。

【若園議長】 海外に行って自分を改めて知ることができるよい機会となる。異文化に触れることの意義は大きい。

(7) その他

【教頭】 学校からは特になし。

【益子和委員】 学校敷地のすぐ外にごみが目立つ。

【若園議長】 警察が役場への連絡と生徒への不振者に対する注意喚起が必要ではないか。

【益子委員】 この委員会の機能として、先生方の適正な配置に関する要望をだすことができると記憶している。クラス減になる見通しであるにあたって、職員が減っていくと考えられる。この協議会として要望していく必要があるかどうかについて、今の段階で考えられるところをお知らせいただけるか。

【小島校長】 現時点においては、割り当てられた職員の中で、特に教育活動を減らすようなことなく対応していきたいと考える。

【若園議長】 協議会として意見はさし述べることはできるというのはあったと思う。

【小島校長】 現状、不十分で困っているという状況ではない。

【若園議長】 クラス減に伴い機械的に職員数を減らしていくのではなく、県には充実した教育活動のために適正に判断していただきたい、という意見は申し述べられるのではないか。

【益子委員】 2学級特例校になることを危惧しているので必要なことは県に伝えるべきであると考えられるかいかか。

【若園議長】 何らかの形で伝えられたらと思う。次回に向け、今回はこういう意見が出たということでもとめたい。

6 閉会 次回は2月中旬に実施予定